

りんどう黒斑病対策

(平成 25 年度病害虫発生予察情報 特殊報 第 3 号より抜粋、一部修正)

1 病徴と発生生態

はじめ、葉に直径約 5 mm の褐色の斑点が発生し、徐々に輪紋状に病斑が拡大して (図 1)、葉全体が枯れる。病勢が進展すると、がく片や花弁にも褐色の斑点を生じる (図 2、図 3)。本病の病斑は、葉枯病や灰色かび病と酷似している。

岩手県の報告によると、発病適温は 20～25℃ で、接種後 3 日目頃から褐色の葉枯れが認められ、5 日目には大型病斑が形成される。

本病が感染した被害植物の残さは、翌年の第一次伝染源となることが考えられる。

2 防除対策

- (1) 発病を確認したら、速やかに薬剤防除を行う (表)。
- (2) 発病葉、被害残さは、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

表 りんどう黒斑病に登録のある薬剤の例 (令和 8 年 1 月 6 日現在、
独立行政法人農林水産消費安全技術センター農薬登録情報提供システムより)

薬剤名 (商品名)	FRAC コード
ペンチオピラド水和剤 (アフェットフロアブル)	7
ピラジフルミド水和剤 (パレード20フロアブル)	7
インピルフルキサム水和剤 (カナメフロアブル)	7
メパニピリム水和剤 (フルピカフロアブル)	9
クレソキシムメチル水和剤 (ストロビーフロアブル)	11
ポリオキシシン水溶剤 (ポリオキシシンAL水溶剤) ※花き類・観葉植物で登録	19



図 1 黒斑病の病徴 (本葉の輪紋症状)



図 2 黒斑病の病徴 (がく片の枯れ)



図 3 黒斑病の病徴 (花弁の斑点)



図 4 りんどう黒斑病菌